

稲作情報

Vol.5 平成26年7月11日

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部

問い合わせ先: 本吉農業改良普及センター

TEL: 0226-29-6044

ホームページ: <http://www.pref.miyagi.jp/my-nokai/>



生育は平年より4日早い。斑点米カメムシ類が多発

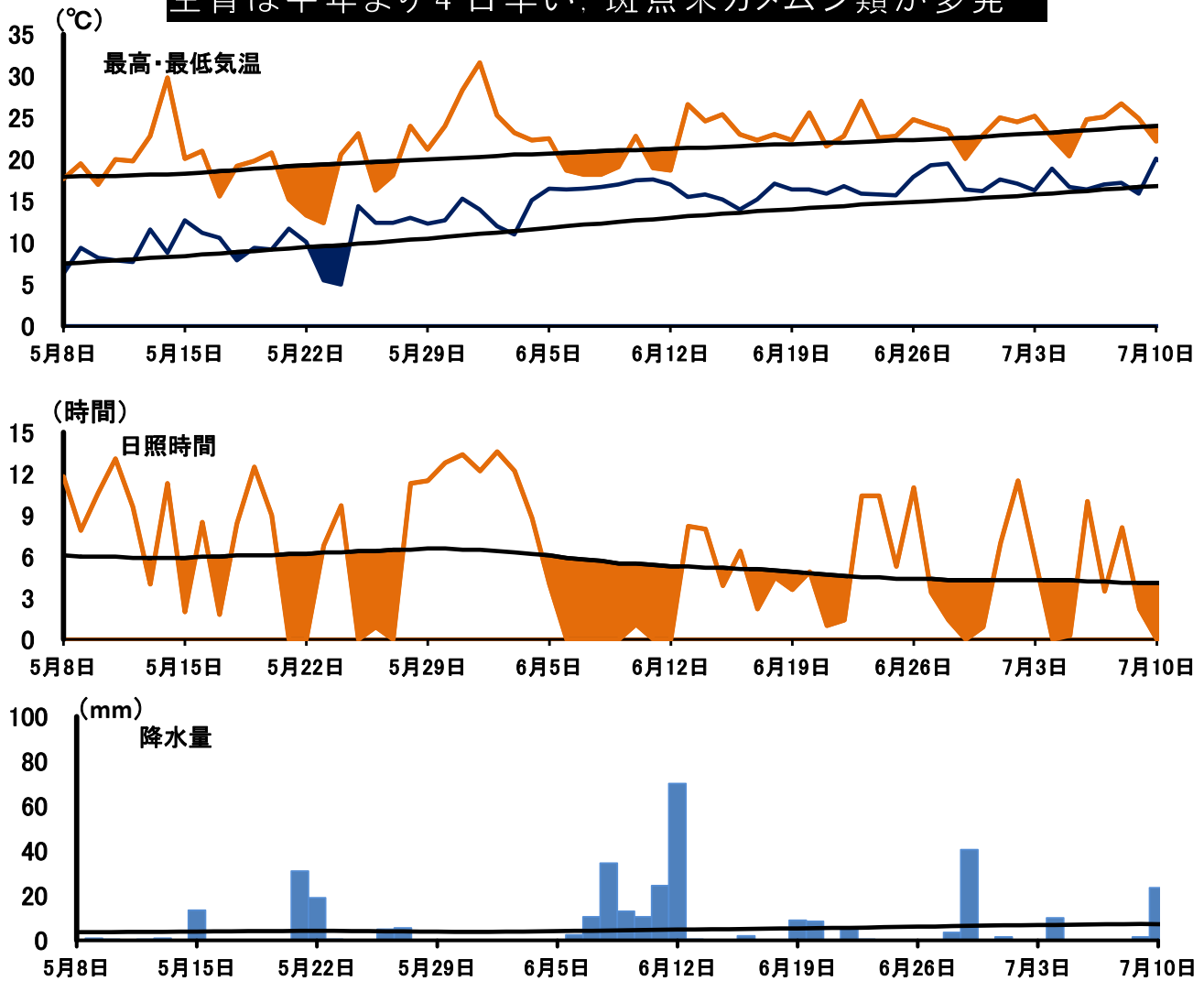


図1 気象経過図(気仙沼アメダス:5/8~7/10)

気象経過 7月上旬は気温は高め、多照少雨で推移

7月に入ってから気温が高い日が続きました。

また、日照時間は平年より多く、降水量は平年を下回りました。

表1 半旬別気象表(気仙沼アメダス)

	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	H26	平年	差	H26	平年	差	H26	平年	差	H26	平年	比	H26	平年	比
6月3半旬	18.8	15.7	3.1	25.0	20.5	4.5	13.7	11.4	2.3	50.8	31.5	161%	0.0	19.7	0%
6月4半旬	17.7	16.3	1.4	19.4	21.0	-1.6	16.8	12.3	4.5	1.1	28.4	4%	71.0	22.0	323%
6月5半旬	19.1	16.8	2.2	22.9	21.4	1.5	16.2	13.2	3.1	20.1	26.4	76%	95.0	24.4	389%
6月6半旬	18.6	17.4	1.2	23.2	21.8	1.5	15.8	13.9	1.9	21.6	24.9	87%	19.5	26.3	74%
7月1半旬	20.3	19.0	1.2	23.5	23.1	0.4	17.3	15.8	1.5	24.6	21.5	114%	11.5	34.1	34%
7月2半旬	20.6	19.6	0.9	24.7	23.8	1.0	17.3	16.5	0.8	23.8	20.7	115%	25.0	36.0	69%

生育状況

生育は平年より3~4日進み、葉色はやや濃い傾向

- ・7月上旬の高温・多照により、生育は平年より3~4日ほど進んでいます。
- ・気仙沼市の生育調査ほ(ひとめぼれ)では、草丈は平年並(平年比103%)、茎数は多い(平年比110%)、葉数は平年並(平年差-0.1枚)、葉色は平年並(平年比103%)となっています。
- ・南三陸町の生育調査ほ(ササニシキ)では、草丈はやや長い(平年比104%)、茎数は平年並(平年比97%)、葉数は少ない(平年差-0.7枚)、葉色はやや濃い(平年比106%)となっています。
- ・7月10日現在の幼穂長は、気仙沼市(ひとめぼれ)・南三陸町(ササニシキ)ともに1.3mmとなっており、両生育調査ほとも幼穂形成始期は平年より4日早い7月9日と推定されました。
- ・幼穂長から出穂期を予測すると、今後の天候が平年並に推移した場合、両生育調査ほとも出穂期は8月4日と予測されます。
※今後の天候によって、生育ステージが予測値から変動することもあります。
- ・7月10日現在の宮城県米づくり本部情報では、三陸沿岸地域の幼穂形成期は7月8~16日、出穂期は8月7~13日と予測されています。

表2 生育調査結果

調査地点名 品種名 (田植日)		7月1日調査				7月10日調査				幼穂形成 始期
		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 SPAD値	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 SPAD値	
生育調査ほ	平成26年	44.8	717	9.3	40.8	59.2	717.1	10.2	39.3	7月9日
	前年	47.7	602	9.1	39.6	57.6	573	10.4	35.1	7月13日
気仙沼市本吉 ひとめぼれ (5月13日)	平年	44.3	633	9.2	41.1	57.4	653	10.3	38.0	7月12日
	前年比(差)	94%	119%	0.2	103	103%	125%	-0.2	112	-4
	平年比(差)	101%	113%	0.1	99	103%	110%	-0.1	103	-3
生育調査ほ	平成26年	46.6	574	9.1	40.9	56.0	561	10.2	37.1	7月9日
	前年	48.7	624	9.1	38.6	58.8	585	10.5	33.8	7月12日
南三陸町入谷 ササニシキ (5月16日)	平年	42.3	563	9.5	39.1	54.0	577	10.9	35.0	7月12日
	前年比(差)	96%	92%	0.0	106	95%	96%	-0.3	110	-3
	平年比(差)	110%	102%	-0.4	105	104%	97%	-0.7	106	-3

注: 平年値は過去5カ年(平21~25年)の平均値

今後の管理

◎出穂期までの水管理

- 中干しは幼穂形成期までに終了して下さい。中干し終了後は急激に湛水状態とすると根腐れを起こすこともあるので、最初は走り水として、その後に間断かん水を行ってください。
- 幼穂形成期から出穂・開花期にかけて、稲は水を多く必要とします。このころに水分が不足すると、幼穂の発育や開花・受精が妨げられ、減収する恐れがあります。出穂期までは間断かんがいを励行し、水を切らさないように管理して下さい。
- 根腐れが発生しやすいほ場や、倒伏の危険のあるほ場では飽水管理(田面の足跡に水がなくなったら水を入れ、土が十分に湿ったら排水する)を行うと、根の健全化と茎の充実に効果があります。

低温時の水管理

幼穂形成期(7月中旬頃)から出穂開花期にかけて低温に遭遇すると、一穂粒数の減少や障害不稔、玄米の千粒重の低下などにより、収量が低下します。

週間天気予報に十分気をつけ、日平均気温が20℃以下、または最低気温が17℃以下になる場合には深水管理(水深を15~20cmまで高く保つ)を行い、幼穂を低温から守りましょう。

◎追肥の目安

- 今後幼穂形成期を迎え、追肥を行う時期になりますが、追肥は生育や葉色等を確認して行ってください。追肥の判断に迷ったときは、普及センターまでご相談ください。

- 追肥後は、一時的に稲体窒素濃度が高くなるため、いもち病抵抗力が弱まるので、必ずいもち病の防除を実施しましょう。
- 近年、白未熟粒の発生による品質低下が問題になっています。白未熟粒は稲の栄養状態が悪く、穂揃期の葉色が淡い場合に多発することが報告されています。適切な追肥を行い、品質向上を図りましょう。

◎病害虫防除

《いもち病》

病害虫防除所の発生予察情報(7月8日現在)によると、葉いもちの発生時期は平年並の7月第3半旬(7月 11～15 日)で、発生量も平年並と予察されています。

1. 予防防除(発生前)

1) ほ場の見回り

止葉や次葉に付いた葉いもちの病斑は穂いもちへ移行するので、常にほ場の見回りを心がけ、いもち病斑の早期発見に努めてください。

2) 予防薬剤による防除

ア) 粒剤による防除

コラトップ粒剤等、予防粒剤による穂いもち防除は出穂 20～10 日前に行いましょう。水面施用剤の散布時は、水深を3cm以上にし、散布後少なくとも3～4日は湛水状態を保ってください。

イ) 茎葉散布剤による防除

茎葉散布剤で予防防除を行う場合は、出穂直前、穂揃期およびその7～10 日後の3回実施してください。

2. 治療防除(発生後)

○いもち病が認められた場合は、すでに周辺の株に感染している可能性がありますので、予防粒剤施用の有無に関わらず、周辺のほ場も含めて直ちに薬剤散布を実施してください。

○発生の多いときは、散布間隔を詰めたり、雨の合間でも散布を行うなどして病気の進展を食い止めましょう。その際に、前回とは違う系統の薬剤を使用すると効果的です。

○共同防除実施地域で共同防除ができない場合には、補完防除を行なってください。



「葉いもち防除は、予防防除と発病の早期発見が大事です」

《斑点米カメムシ類》

水田周辺で斑点米カメムシ類が多発！

病害虫防除所から7月 4 日に、斑点米カメムシ類注意報第1号が発令されています。

斑点米カメムシ類の防除には、雑草等の管理と薬剤による防除があり、両方の防除方法を実施することが重要です。

1. 耕種的防除

1) 水田内雑草

水田内のイヌホタルイやヒエ等の雑草は、カメムシ類の水田への侵入および斑点米被害を助長するので、確実に除草しましょう。

2) 水田周辺の雑草

雑草地，農道，畦畔等の雑草を刈り取って，カメムシ類のエサとなる穂をつけさせないようにしましょう。水稲の出穂期前後の草刈りはカメムシ類を水田に追い込むことから，遅くとも出穂 10 日前（7 月 25 日頃）までに実施してください。

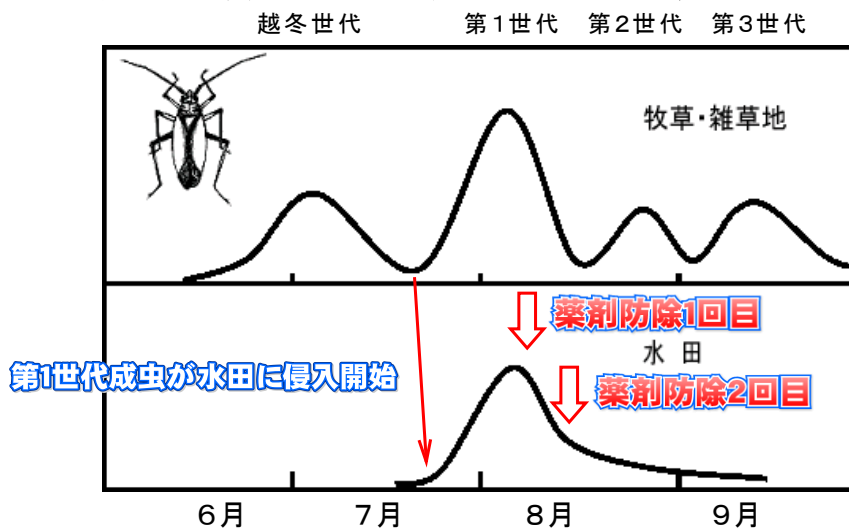
2. 薬剤防除

○ 薬剤防除は，穂揃期とその7～10日後の2回実施が基本です。茎葉散布剤を使用する場合は，畦畔も含め防除してください。

○ 2回目に使う薬剤は，1回目と異なる分類の薬剤を使うと効果的です。

◎ イヌホタルイが発生した水田で除草が間に合わない場合は，1回目の薬剤散布を「出穂始」に早めることで，斑点米カメムシ類の密度を低下させ，斑点米の発生を軽減できます。

* 草刈りや薬剤防除は地域で一斉に行うと効果が上がります。



アカスジカスミカメは，越冬世代が産卵した，第1世代が水田に侵入します。

7月上旬は，越冬世代が減り，第1世代幼虫が増える時期です。

図2 水田および周辺牧草地におけるアカスジカスミカメ成虫の発生活長

表3 斑点米カメムシ類すくい取り調査結果(H26.7.7～9実施, 単位: 頭)

市町	カスミカメムシ類				ホソハリカメムシ
	成虫			幼虫	
	アカスジカスミカメ	アカヒゲホソドリカスミカメ	ムギカスミカメ		
気仙沼市 10地点平均	5.2	4.6	3.7	4.3	1.2
気仙沼市本吉町 7地点平均	4.1	7.9	2.4	2.0	3.4
南三陸町 3地点平均	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0

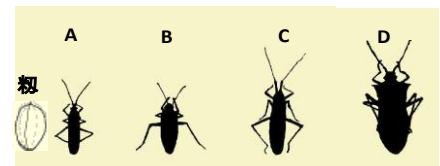


図3 斑点米カメムシ類の大きさ比較 (ほぼ実物大)

- A: アカヒゲホソドリカスミカメ
- B: アカスジカスミカメ
- C: ムギカスミカ
- D: ホソハリカメムシ

斑点米カメムシ類防除適期の「穂揃期」っていつ頃？



- 左の写真のように穂の先端が止葉葉鞘から出た状態の茎が，水田全体の5～10%程度の時期を「出穂始」40～50%程度の時期を「出穂期」80～90%程度の時期を「穂揃期」といいます。
- 「出穂期」から「穂揃期」までは天候にもよりますが，2～3日かかります。
- 一般的には，穂が完全に伸びきった時期を「穂揃期」と呼んでいることが多いようですが，正しい時期を理解して適期防除を心がけてください。